

まちの話題あれこれ



100歳の長寿を県知事がお祝い

石川知事が山本猪作さんを訪問

来年1月16日に満100歳の誕生日を迎える山本猪作さん（上長尾）の長寿を祝うため9月15日、石川嘉延県知事と杉山嘉英町長が山本さんの自宅を訪問しました。猪作さんは石川県知事から、内閣総理大臣からの祝い状や県からの記念品、花束などが贈られました。このあと知事は、猪作さんと楽しそうに歓談し「お茶を飲んで長寿日本一を目指してください」と祝いの言葉を述べました。猪作さんは「健康でいられるのは家族の愛情のおかげです」と答えました。

我が家の一品を持ち寄って

坂京で我が家のお宝コンテスト



写真右...
1等1席
土屋鉄郎さん
2席
大村雄一郎さん
・清子さん
・美也子さん



全国茶品評会熊本審査会 結果（普通煎茶10キロの部）（敬称略）

個人結果 ▶ 1等1席（農林水産大臣賞）つちや農園 土屋鉄郎（尾呂久保）、▶ 1等2席（農林水産大臣賞）（有）川根香味園 代表 大村雄一郎（沢間）、▶ 1等4席 丹野園 丹野浩之（水川）、▶ 1等5席 農事組合法人わらやま 代表 小坂博志（久保尾）、▶ 2等5席 高田農園 高田智祥（藤川）、▶ 2等6席 田野口第一製茶組合 代表 和田安久（田野口）、▶ 2等10席 相藤園 相藤令治（藤川）、▶ 2等11席 農事組合法人中川根はちなか園 代表 中村宗夫（八中）、▶ 2等12席 相藤農園 相藤直紀（藤川）
産地賞（普通煎茶10キロの部）
▶ 川根本町597点、▶ 八女市（福岡県）585点、▶ 静岡市553点

高齢期をはつらつと過ごすために

健康表現体操20人が汗を流す



青木美智子さん（全日本健康音楽研究会員・徳山）が指導する健康表現体操は9月2日、健康増進施設で実施され、参加者20人が心地よい汗を流しました。

この体操は、高齢期の健康づくりを目的として6回実施する教室です。童謡や民謡などの音楽に合わせ、ゆっくりと関節やストレッチ運動するのが特徴です。参加者からは「普段あまり体を動かすことがないので、気持ち良かったです」などの声が聞かれ、元気に体操を楽しんでいました。



保育園児たち綱引きで大はしゃぎ

町内3保育園が交流事業を実施

桜、徳山聖母、三ツ星の3保育園は9月11日、桜保育園を会場に交流事業を実施しました。

企画した上野直子桜保育園園長は、「プールの季節が終わり、みんなで体を動かす交流をしたかった」と事業の意図を話していました。園対抗の綱引きやりレーなど、園児たちは大はしゃぎ。綱引き最後の対戦となった「園児対先生」では、園児たちが見事に勝利し大喜びでした。運動会も近づき、その雰囲気づくりにも一役買った交流事業となりました。

華やかににぎやかに夏の夜を満喫

商工会合併を記念して夏まつり



大勢の来場者が夏の夜を満喫しました

川根本町商工会の合併を記念した「商工会夏まつり」は8月20日、茶茗館で開催されました。特設ステージでは、中川根友錢会・和楽会による銭太鼓や、西アフリカ民族音楽グループときわの楽しい演奏が祭りを盛り上げました。また、金魚くじや射的などたくさんの出店が、子どもたちに人気でした。

茶室では、話座の皆さんがやさしく語る「民話の語り」が聴衆を魅了。来場者はさまざまな催しを中心まで楽しみました。

川根茶が13回目の日本一を獲得

全国茶品評会熊本審査会で快挙

第62回全国茶品評会審査会は8月26から29日の4日間、熊本県益城町（熊本経済連茶入札場）で開催され、「普通煎茶10キロの部」で、つちや農園 土屋鉄郎さん（尾呂久保）が1等1席・農林水産大臣賞を受賞し、見事日本一に輝きました。また、（有）川根香味園 代表 大村雄一郎さん（沢間）が、同部門1等2席・農林水産大臣賞を受賞し、川根茶が上位を独占しました。

茶産地の栄誉である「産地賞」で、川根茶が1位となり、前々回の第60回静岡大会から2年ぶりに個人・団体ダブル受賞しました。

1等1席の土屋鉄郎さんは、「天候などの条件や摘採のタイミングに恵まれました。今回受賞できたのは、摘採に協力してくれた皆さんや、指導してくださいださった皆さんのおかげです。今回出品した川根茶はみなレベルが高いお茶ばかりでした。1位になるかどうかはほんの少しの差だったと思います」と話してくれました。1等2席の大村雄一郎さんは、「10キロの部に初挑戦で1等2席は大変うれしい結果です。皆さんには、いろいろな面でお世話になりました」と話してくれました。



伝統の舞が来場者を魅了しました

徳山の浅間神社「徳山の盆踊」

国指定重要無形民俗文化財である「徳山の盆踊」は8月15日、徳山の浅間神社境内で開催されました。

夕方から始まった祭りでは、町内外から訪れた観客の前で、勇壮な「鹿ん舞」や優雅な「ヒーヤイ踊り」、おごそかな「狂言」が披露されました。

またカメラマンも大勢いて、一瞬のシャッターチャンスを逃さないようにカメラを構えていました。

毎年恒例の花火も盛大に実施され、一発打ち上がるごとに大きな歓声が上がりました。

「そりやあ・うん・はい」のかけ声と共に舞台の周りを駆ける鹿ん舞